

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 2 部門第 1 区分

【発行日】平成 18 年 3 月 9 日 (2006.3.9)

【公開番号】特開 2004-98054 (P2004-98054A)

【公開日】平成 16 年 4 月 2 日 (2004.4.2)

【年通号数】公開・登録公報 2004-013

【出願番号】特願 2003-197814 (P2003-197814)

【国際特許分類】

B 0 1 F 17/42 (2006.01)

B 0 1 F 17/02 (2006.01)

B 0 1 F 17/14 (2006.01)

C 1 1 D 1/29 (2006.01)

C 1 1 D 1/34 (2006.01)

C 1 1 D 1/722 (2006.01)

【F I】

B 0 1 F 17/42

B 0 1 F 17/02

B 0 1 F 17/14

C 1 1 D 1/29

C 1 1 D 1/34

C 1 1 D 1/722

【手続補正書】

【提出日】平成 18 年 1 月 25 日 (2006.1.25)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 2】

処理方法は触媒の種類によって異なり、例えば、アルカリ触媒及び金属アルコラート触媒を用いた場合酸で中和する。用いられる酸は、塩酸、硫酸、硝酸、臭化水素酸、リン酸のような鉱酸、メタンスルホン酸、エタンスルホン酸、酢酸、p - トルエンスルホン酸のような有機酸が挙げられ、好適には塩酸、硫酸、リン酸、メタンスルホン酸、酢酸であり、特に好適には塩酸、リン酸、メタンスルホン酸、酢酸である。中和後、常法の処理を行い、例えば塩が不溶の場合、濾過し、溶剤を留去して、目的物を得る。又、水を加え、水に不溶の有機溶剤を加え、抽出、乾燥、溶剤を留去して、目的物を得ることもできる。ハイドロタルサイト系触媒及び酸性触媒の塩を用いた場合、触媒を濾過して除き、溶剤を留去して、目的物を得ることができる。酸触媒を用いた場合、アルカリで中和する。用いられるアルカリは、水酸化リチウム、水酸化ナトリウム、水酸化カリウム、水酸化カルシウム、水酸化バリウムのようなアルカリ金属水酸化物及びアルカリ土類金属水酸化物があげられ、好適には水酸化ナトリウム、水酸化カリウム、水酸化カルシウムがあげられ、特に好適には水酸化ナトリウム及び水酸化カリウムがあげられる。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 6】

従って本発明の高級脂肪族アルコールのアルキレンオキシド付加界面活性剤は、乳化重合用乳化剤、金属加工用乳化剤、化粧品用乳化剤、塗料用乳化剤、農薬用乳化剤、樹脂用乳化剤、ポリエチレンワックスや酸化ポリエチレンワックスなどのワックス用乳化剤、n-パラフィンなどの蓄熱冷剤用乳化剤；顔料や脂肪酸金属塩等の紙用薬剤の分散剤；香料等の可溶化剤；衣料用洗剤、皿洗い用洗剤等の家庭用洗剤、電材用洗浄剤、機械金属用洗浄剤等の工業用洗浄剤；浸透剤；湿潤剤；消泡剤等の各種界面活性剤用途に有用である。更に、本発明の高級脂肪族アルコールのアルキレンオキシド付加界面活性剤は、必要に応じて従来の公知の界面活性剤、高分子量乳化剤、保護コロイドなどと併用することよりなる界面活性剤をも含有する。併用できる界面活性剤としては、例えばアニオン性界面活性剤として長鎖アルキル硫酸塩、長鎖アルキルベンゼンスルホン酸塩、ポリオキシエチレンアルキルフェニルエーテル硫酸塩、アルキルジフェニルエーテルジスルホン酸塩などがあり、非イオン界面活性剤としては、ポリオキシエチレンアルキルエーテル、ポリオキシエチレンアルキルフェニルエーテル、ポリオキシエチレン脂肪酸エステル、プルロニック型界面活性剤などがある。併用できる高分子乳化剤としては、ポリビニルアルコール、ポリ(メタ)アクリル酸塩、ポリヒドロキシアリケン(メタ)アクリレートなどがある。併用できる保護コロイドとしてはアルギン酸ナトリウムなどのアニオン性保護コロイドやヒドロキシエチルセルロースのような非イオン性保護コロイドがあげられる。